

第5回第3次教育ビジョン策定委員会 議事要旨

日 時	平成30年11月20日（火） 14:40～16:00
場 所	県総合教育センター 第1棟2階パソコン室
出席者	<p><委員> 12名 川治 秀輝 委員、川瀬 憲司 委員、嶋崎 吉弘 委員、清水 優子 委員、 下野 泰輔 委員、下屋 浩実 委員、中村源次郎 委員、原 紀子 委員、 益子 典文 委員、松野 英子 委員、矢嶋 茂裕 委員、吉永 和加 委員 （欠席者3名、欠席した委員からも事後にご意見を提出いただいた）</p> <p><県> 21名 教育長、教育次長、義務教育総括監、総合教育センター長 他</p>

会議の概要	
1	開会
2	あいさつ
3	協議事項
	○ ICTの環境整備について
	○ 第3次岐阜県教育ビジョン素案について
4	閉会

意見の要旨

(1) ICT環境の整備について

- ICT環境が整備されても先生が使いこなせないと意味がなくなる。費用対効果が出るように使ってもらいたい。どう使っていくかが今後の課題。
- ICTでの授業は子どもたちも興味を持つと思う。体験してみて、やはり楽しいと感じた。消極的な子どもたちも、積極的に学べると思う。子どもが楽しいと先生も楽しくなり、先生のやりがいにつながる。
- ICTの授業を実際に展開しようとする、何をやるのか具体的にならず難しい面もある。ポイントで上手くICTを使うと、効果が出てくると思う。ベテランの先生には、難しい部分もあるかもしれないが、ICTを活用した授業については、先生に全面的に頑張ってもらいたい。ICTの充実は岐阜県の教育の魅力につながると思う。

(2) 第3次岐阜県教育ビジョン素案の概要について

- 自分たちが育った時代に比べて、今の子どもたちは、とても生きにくい時代だと思う。子どもの自己肯定感が養えるような教育を目指してほしい。

- 多様性を認めることは重要なことだと思う。いろいろな学校を訪問するが、女性校長はやはり少ない。子どもたちが学校生活の多くの時間で接する教員を子どもたちはみていると思うので、教員の採用、その後の管理職の登用の面において、女性が活躍している姿は重要だと思う。
- 「オール岐阜」の視点をぜひビジョンに入れてほしい。学校の先生だけでなく、様々な主体に出来るだけ教育に関わってもらおうことが、今後は大切になってくると思う。
- 「『ふるさと岐阜』の地に根を下ろし」という表現は、岐阜に居続けることを強いているように感じる。ふるさと岐阜への関わり方は様々であっても良いと思う。海外で活躍することも是としないといけない。この部分のスタンスについては、しっかり吟味してほしい。
- ICTを整備することは賛成だが、整備することが目的になってはいけない。導入した上で、授業が活性化したとか、いろいろなことが分かる生徒が増えたとか、そういった効果までしっかりフォローしてもらいたい。施策実施目標についても、「～が使える」「～ができる」ではなく、使って、「～ができた」のような結果につながるようなものを検討してほしい。
- 現代では先生より子どもたちのほうが上手くICTを使いこなすかもしれない。子どもたちが授業の補助者になるなどの活躍する場面があってもよいと思う。
- ICTは使うことが大切。環境が整っていれば、子どもたちは使うようになる。子どもたちのICT活用能力を、学びにいかしていけるように、投資するなら、手厚く徹底的にやってほしい。
- 教室の掲示物が多いという指摘もあったが、子どもたちに何かを伝えたいとなると、夢中になって作ってしまう教員の姿もある。ICTの活用、資料の共有で校務のスリム化につながり、教員の多忙化解消になると思う。
- これからの経済社会を子どもたちが生き抜いていくためには、ICT機器を使いこなす実践力、英語力も大切である。ビジョンの案には、ICTの環境整備や英語教育の充実が盛り込まれており、大変心強く感じている。
- 時代の流れに合わせて新しいものを導入することによって、子どもたちが楽しく学ぶことにつながっていくと思う。ICTをはじめとする機器には、子どもたちは興味を持つので、そのような環境づくりができると良い。
- 岐阜の地に根をおろす子もいれば、グローバルに活躍する子もいる。様々な場面で活躍できる子どもたちが育っていくといいと思う。
- 教育ビジョンには直接は関係ないことだが、教育の根本は、子どもたちが、興味を持って主体的に学びたいという意欲にあると思う。しかし、第一志望校の公立高校に不合格の場合、本人の学びたいことは当然違うわけで、そこにジレンマを感じている。うまく言えないが、子どもたちが興味を持って、学びたいと思ったことを学べるような仕組み

についても、将来的に検討してほしい。

- 「『ふるさと岐阜』の地に根を下ろし」という表現は、「進学や就職の際、県外に出ないでほしい」といった感じを受ける。外に出て岐阜に貢献するというように、いろいろな形でふるさとに貢献できると思う。
- 働き方改革を進めるにあたって、やらなければならないことがたくさんある中で、早く帰るように促されても上手くいかない。複数の代替案の準備があった上で、早く帰る工夫をすることが大切だと思う。
- 第3次教育ビジョンの5年間は、学習指導要領の改訂、大学入試改革など、教育を取り巻く環境は大きく変わる。それに伴って、各学校段階での変化もあるように思う。その中で、5年先を完全に見通して、5年間の施策を立てるのは難しい。提案としてだが、教育ビジョンの進行管理のために毎年実施している点検評価会議の3年目（2年目の評価時）に、目標の数値を見直すことや、新たな施策を考えることなど、柔軟な対応をすることについて考えてほしい。